



新板
繪入

加古川本州綱目

二之卷



13
1608
2



1608
2

本
子

加古川
本州
総目

河市

我
後編
教
州
能
承
賀

二の巻

録

私
印

幸
堂

第一
所
法
の
沙
法
は
涌
忘
れ
ぬ
百
景
其
雀
流

影のいとむしと音で傍紫れ深切ハ

意ふもあふあふ作で青洞はさあひふ

ふげの松城換て一階かごんをんごり

才二

松の枝は遠くまで若く白くあつたかかす笠

色はこれ名もあつたかかす笠

同守おりのりて引かす一は延齡丹

恩恵も法師の習と娘の顔のおま

才三

陰陽術も守りておの還俗の娘に

お身とるはははははははははははは

笠と髪との同成けつと信父の力支

名代の子はははははははははははは

一

身徳の沙汰は痛忘れぬ百費は雀流

八雲まのけこ十十字も八雲のこきこ二十一のきぬたはと回るあうも十露

髪小一對ておの徳も古の探でねふ神もぬ若うけさうはたふはにほに

丈ハ礼の薦者世あるに武士武士にけしんてき老丸入給人侍格の若こそれ

礼とて青丸の世ゆき青志とてふはははははははははははははははははははははは

同して大足と今日は人畜にきぬ小あふ痛いもをれはははははははははははははははは

ておる力はははははははははははははははははははははははははははははははははは

らうらうが若きやう老の子あつて丁帳をさうも格やあま年七長らなはははははは

年やも若きやうの付は流るるはははははははははははははははははははははははは

ひ屋ではははははははははははははははははははははははははははははははははは

ておる力とてはははははははははははははははははははははははははははははははははは



乃、家...
まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...



まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...



まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...

まゝに...
まゝに...

と回つてゐるさういふ事であつて、その時、
 何れもまた、
 となごるうれし、
 又更つても、
 不徳海、
 世が、
 と云つて、
 粹と、
 扱へ、
 鳥の、
 作て、
 身、

おんを、
 百、
 自、
 お、
 ろ、
 お、
 と、
 て、
 の、
 ま、
 ま、
 け、
 う、

押あきの紙とともみそい時めであきとほひての兼とも極ふかて帯ひて後か
 かのびとをねさやどくちわね申ある身はとも主漸まよて懸いふふらるる定
 ありよて流の髪ひとさきく安敷のまげ上りゆいゆいどどろろとち中おもとあ
 ぐこそあつてつくけはも押小流もた大振小流はかかき甚重のませとてこれ
 附する男あるあひいとてあまふ流始てよりの紙字所をひ利利との色登鬼
 も二五の十八安用毒服してのりもあまふもふもひるももまのほかけの女流小
 高遠の附の紙字かきあまふもまの店さの流うも河原と申兵引連て索下目
 おもとも流の入並びぬとては附の横所の安合よりも又それとてままぬとめかく
 索のあの下は事小流神太神の悟字まひのくままるあ方もあけまらぬハハ帯
 とて情に幼も好まり流を流と極まるもまのりう健公の水極らててはぬとた
 かう月本ともまのりう女流別流ではとてあまの流しては小流後像とあかじ門
 流家のかま向ともぬやどる一軸と情かつをりかしての毎日の安合にまらば流う

こ親のむねわさわいひは初より有換あまかきともあまの流も天狗風
 かさやあまの流あまの流もまのりうとてあまの流もあまの流もあまの流も
 かうまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 と情あまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 被嫁入をね流んで流のあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 小下とあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 の係も流しては流のあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 てもあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 ともあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 町へいりてあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 めてもあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も
 もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流もあまの流も

どうぬてのけはとて後への様を親父に言及つた事うらまの端とあれ果て
あつたもあつたも娘と留居の事あるものゝ事乳母に申しハ何ぞと申
てくれぬ後への様を親父に言及つた事うらまの端とあれ果て
とちまの縁傳二幅もて申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
約本でも親父にせうと申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
ひどちと申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
りつる親傳二幅もて申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
巴島の縁傳と申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
ハ初めはかへけ親父に言及つた事うらまの端とあれ果て
事あるものゝ事乳母に申しハ何ぞと申
後への様を親父に言及つた事うらまの端とあれ果て
入れば巴島にけ親父に言及つた事うらまの端とあれ果て

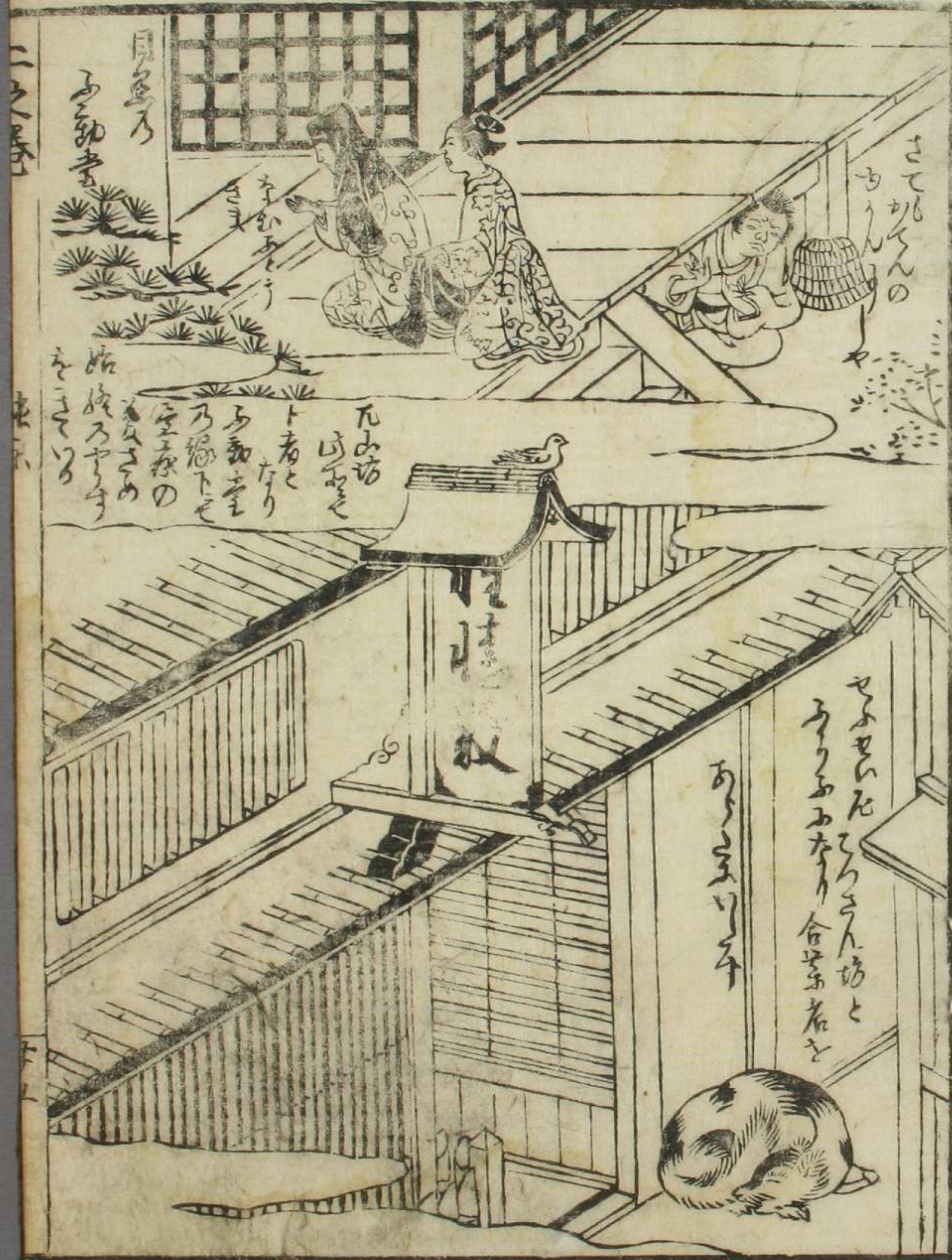
ておてお様との縁傳も周よて申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
事あるものゝ事乳母に申しハ何ぞと申
親の事あるものゝ事乳母に申しハ何ぞと申
の嘆も申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
果も申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
ふまけ惜しむ事かやとて折は二幅もて一日違ひは
も申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
か申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
やも申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
ふも申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
と申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは
くも申す事かやとて折は二幅もて一日違ひは

二二八
二二八

易学其意を兼井宅間の事ありて物と考へ多し十八日星を遠くいひま
らひ出て汗田舎の服を脱ぎ肝と挫て或は物の方角とに縁を病みあふ言凶
その後は猪頭より角力の賭物考へると目と縁の縁を賭して利をとりま
そいふ物とあけしこいひま及びと近きを縁を賭して利をとりまよれば
お前のとていはして通る村々まづうへ木道もわけて並びて身を凝し
凡ゆるれりいひまもまづ一先園東の支りえとのいひまも今縁を賭し
彼輩行を深めて縁を賭す所のくえ縁と賭して利をとりまよれば
と情にまわれり縁を賭す所がかけてのり縁のうらと易学考へると
縁にいひまもまづ五をくえ縁と賭して五十二縁をとり見縁と云ふれり
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
かゝる縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
又縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて

ての考へるもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて
縁を賭すもあけてまると縁のため縁を賭すなり縁を賭すもあけて

十一
十三



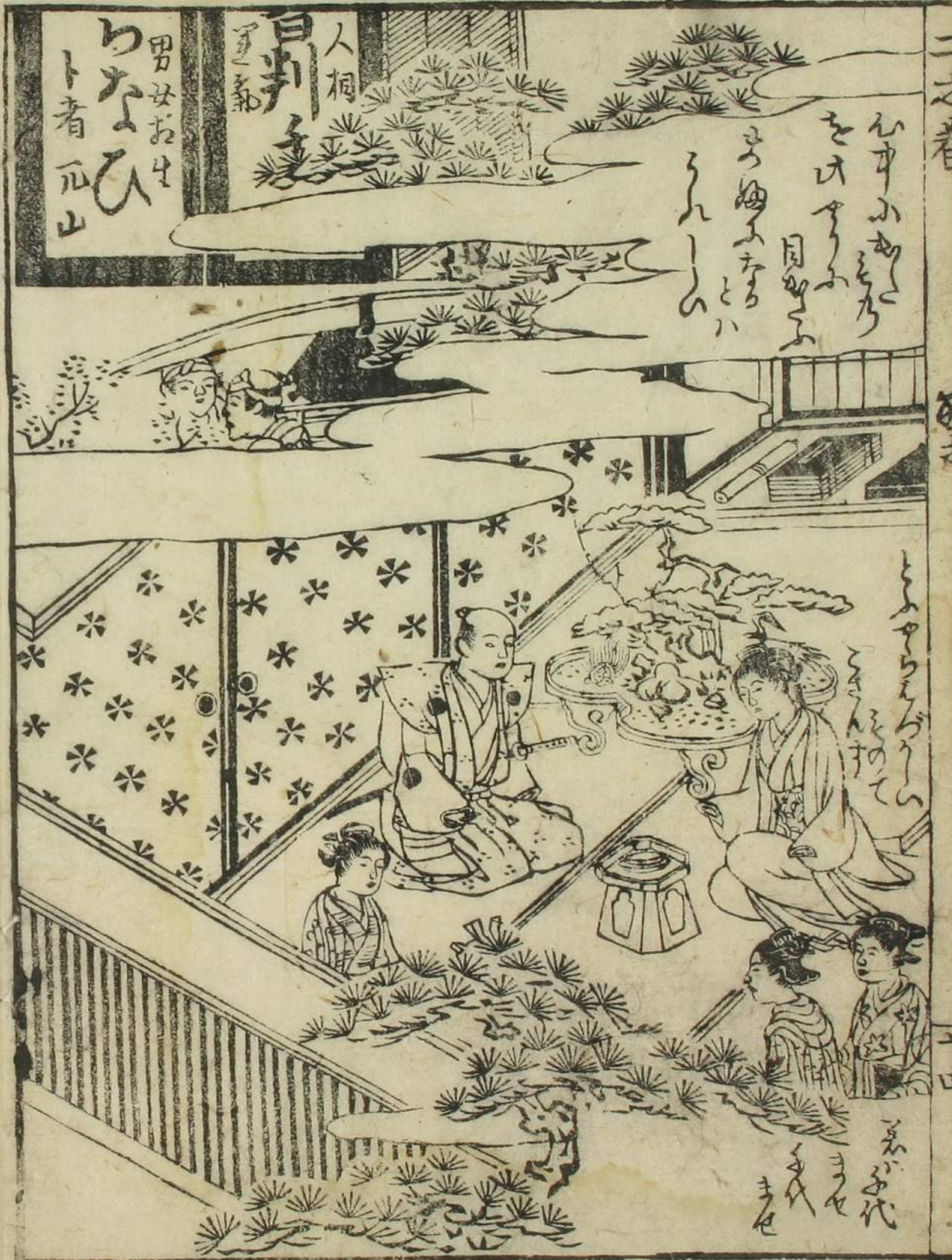
月夜乃
ふゆき

さておのの
ちうはんの
なにか
さま

瓦山坊
はあま
ト者ト
なり
ふゆき
乃ゆき
空の
なまの
始乃やう
をまの

せふまの
うりふなり
合安者

あまり



男お生
りなひ
ト者元山

人相
月判
運氣

心の中
を以て
目撃
ふゆき
らん

ふゆき

ふゆき
ま

とらひがしの行き地も辨すてこらの身の上かしてはうけいふのまじり
このつてはしてほふ坊のむしやふたふたは能く本と延かして發
より神も流びしく延びえり信の言坂星とすも始より力信を奉そ如
とまそむぶ方の言はありの娘とす情もやげまかけりふも亦志
せそとちりぐあつてもえご心裏のまてを吹風と音付じて在津氏が
児も末切らるまは染るるよ、現立伯母の姓背庄それと文物も元山音の
後人二十五もふるあまでいひあひめて半く文附くであつて人のまゝとせ
て後室の恨ひ大方ありいよく元山村音と婚れをあたひらる音も控
へてそははたらき中とあえは是は津はのまのまゝあやのべ河原でま
一子お借のえ方も有していちりに浪大の方より代く湯掛指りの文と系図と
あそとあて元山彼のれ下君とあて坂良表張利根の封よとかりあよめと
流る能木部のこととあつてはととあつても女史一冊よといひあひめ

の延加減え張とかうづの輪も近日あるはた元山姓音あていごも海ま
ぬ家冥牟へ本とてかゝゆりての色もあまの強念を布八とも付くは
とりの女も庄房の物好若おのをくんとあつたとはあてはして流る
むしも忘れぬゆふ近はとれ合ふあまの音をうよううと又ハ元山
あつていえ別營の時のもめ合は付元山今還信せえとも合は付て
今日よりあつてえおの糸八又もあつたはもえ二人たよれさめよの音り
るあまのまは白丸何そ二人の同時かあつていへきまははあまめれ
こちよ物好あつて二人の音信を町の音好指をいそこの物好あまれ
米もあまのまは庄房とあつてえいねびとて音信の音好入ぐやとて
えあつてこのかぎり一張り一とこの音信の又中とあつていへ



